

研究所だより

第290号
2010年2月1日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

<最近の読書本、「筆談ホステス67の愛言葉」から>

この本の作者、斉藤理恵さんは、私は日本一の夜の街・銀座でホステスとして働いています。私は耳が全く聞こえません。お客様とのコミュニケーションの手段は筆談です。私は、日本で唯一の「筆談ホステス」です。という書き出しで始まり、「誰かの励みになれば・・・」そう思って発したメッセージが、障害のある、なしを超えて、多くの人に届いていることを確かに感じ、(中略)遠く離れた誰かの心に力を与えられた——これほど喜ばしいことはありません。

この本は皆様への私の筆談のメッセージです。「どうぞお受け取りください」と締めくくっています。

この本を読んで私なりに心に残った言葉を列挙します。たまには、頭も身体もゆっくり休ませてあげてください。

「**難題のない人生は、“無難”な人生。難題のある人生は、“有難い”人生。**」

苦しい時代を乗り越えられ、還暦のお祝いでお店に来た方、会社に入って42年、難題続きで心が安まる暇がなかったと言われた男性につづったものです。

「**隣に誰かいるだけで、“憂い”は“優しさ”に変わります**」

会社を辞め独立を考えている男性の方が、未だに独立することに賛成してくれない奥さんに離婚話をも持ちかけられているという話を聞いたときにつづったそうです。その男性の方が、不安を抱えている奥さんに一緒に頑張りたいと言ったら理解してくれ、独立を支えてくれることになったそうです。

「**過去と他人は変えられませんよ。でも、未来と自分は変えられます!**」

仕事一筋で生きてきて、今後の人生について悩まれている方、趣味もなく友だちもいない、仕事以外には何もないと気を落とされている時につづった言葉です。

「**“涙”を止めれば、また笑顔に“戻”れます。“泣く”のを止めれば、『立ち』あがって前に進めます**」

この不況の中で和菓子店を締めることになった方に今後の人生を楽しく生きてもらいたいと思ってつづった言葉です。

「**“人を良く”すると書いて“食べる”**」

息子さんが不登校となり部屋にこもりがちとなった方に『一緒に食事をされてはいかが?』『食事は人と人との関係も良い方向に導いてくれる力がありますよ』とアドバイスした言葉です。

まだまだ心に残った言葉がありますが、紙面上割愛します。時間に余裕があれば一読してみたいですか。自分の生き方や人との触れ合い、色んな場面で参考になるような気がしました。

<2月の歳時記>

たまには、頭も身体もゆっくり休ませてあげてください。

【節分】

豆まきが楽しみな節分は、季節を分けるという意味で、立春、立夏、立秋、立冬の前日を言います。旧暦では、立春を新しい年の始まりと考えていたので、現在の2月の節分は、旧暦の大晦日に当たります。そのため、今でも節分のことを、年取り、年越しなどという地方もあります。旧暦からの考え方や、温かい春に向かうことなどから、立春の前日の節分だけが今も残っています。



【春一番】

2月4日は立春。暦では立春以降を春と言います。この立春を過ぎて吹く南寄りの強風のことを春一番と言います。もとは瀬戸内や香岐地方の漁師が防災のために言い出されたという説もあり、昭和32年から報道用語として採用されたようです。

春一番は、低気圧が日本海に入ってから急速に発達したときに吹くので、天候が春に移り変わった証拠です。春一番が吹いた日は気温が上昇したり、雨を伴う台風並みの嵐となるので、雪崩、フェーン現象を引き起こします。翌日は西高東低の寒さが戻る人が多いようです。

【聖バレンタインデー】

日本では女性が男性にチョコレートを贈り、愛の告白をする日として知られる「バレンタインデー」。しかし元来、この日はローマ司祭バレンタインの殉教日で、キリスト教の祭りにあたります。

3世紀ローマ帝国の皇帝は、兵士が家族のことを考えずに戦えるようにと、結婚を禁じていました。それに対し司祭のバレンタインは、人間性に反するとして抵抗し、何組もの結婚式を取りはからったことから皇帝の怒りをかって処刑されてしまいます。

バレンタイン司祭はこれにより「愛の守護神」として敬愛されることになりました。そして次第にこの日を「愛の日」として、恋人同士が愛を伝え、カードや贈り物を交換し合うようになったのです。

この日にチョコレートを送るという習慣は日本だけのものです。東京のデパートが「バレンタインデーにチョコレートを贈ろう」というキャンペーンを行ったのが始まりです。

<「清水の教育」原稿締め切り間近>

各校、市教研各部会、研究協力校、研究協力グループ、他、「清水の教育」の原稿締め切り(2月15日)が間近になってきました。担当の先生方には年度末の多忙な時期にご迷惑をおかけしますが宜しくお願いします。

誰が読んでも分かるように、目に見えるように、何が成果で、どんな課題が残ったのか、抽象的なことではなく、具体的に、実践をしてどうだったのかということを書いて頂ければ幸いです。そのことで、次年度に繋がる清水の教育が見えてくると思います。

研究所では、提出された原稿の校正は行いません。そのまま業者に発送しますので、誤字や脱字、書き間違いの訂正等、ご配慮の程宜しくお願い致します。